

松江キャンパス ニュース

The University of Shimane Junior College

島根県立大学短期大学部
松江キャンパス広報

vol. **3**
2024.11

地域にあって
輝く大学を目指して

地域交流

地域交流委員会

履修紹介

学生生活課 学務課

TOPICS

特集：食育推進全国大会 in 松江

食育推進全国大会

in 松江

第4回食育推進全国大会

健康栄養学科 奥野元子

第4回食育推進全国大会(主催：内閣府/農林省/高校別食育・食の安全推進協議会)がある6月13日(土)および14日(日)、小浜郡子内町の特別参加館を巡り、くにびきメッセ(松江市)にて開催されました。高校別やNPO法人食育推進協会等と連携し、総合文化学科や保育学科の協力のもと、健康栄養学科の教員や学生を中心に、「わが家の一流シェフin高校」(高校別オリジナルプログラム)、食育ゲームや学生ライブ授業「あなたの食事は大丈夫?」(国産水産物にっぽん食育推進事業「食育フェアin高校」プログラム)、注ぎ型電子顕微鏡を使って「食べ物のミクロの世界をのぞいてみよう」(鳥取県立大学短期大学部ブース)、「読み聞かせ」(カズコーナー)等々各種のプログラムに取り組みました。

来場者は2日間で約13,100人と大会は盛況のうちに閉幕しましたが、学生にとっては、本番に向けての貴重な体験、食育教材作成、ダンスの練習、当日初めて練習する試食用大量調理など、準備から本番まで大忙しの日々でした。当日は、大会のスケールの大きさに圧倒されるながらも、食以外にもコミュニケーションのあり方など、子ども達や地域の方々に学ばせながら、多くのことを学びました。終了後の表情からは、無事終了できた充実感を感じることができました。1、2年が学年の枠を超えて、また、いろいろな職種の方と一丸となって取り組んだ経験は、将来において、自分自身の生きる力に加え、地域の大きな力として発揮するのではないかと期待を抱いています。



食育推進全国大会を経えて

健康栄養学科 山崎裕登



私は6月に行われた食育推進全国大会に参加しました。スタッフとして食育推進全国大会を運営から交えることができました。私が参加したイベントは食育コンサート、食リボンピックです。食育コンサートでは、ステージで歌や踊り、寸劇、食事バランスガイドの授業を行いました。1ヶ月前から準備を始め、大会当日のギリギリまで練習をしていました。やることが多く、一つ一つの完成度は高くなかったかもしれませんが、私たちは一生懸命、お客さんのまで発表することができました。私は発表中にお客さんの反応をよく観察していました。寸劇は食事バランスガイドやメタボリック症候群、正しいダイエット方法について理解しやすいようにしたはずですが、子供には難しそうです。おじいちゃんやおばあさんが聞いているようでした。歌や踊りの時には子供たちが一緒に歌ってくれました。

食リボンピックの一つの競技を私が作成しました。「ショック!食育何か変!?」という競技で、簡単に説明すると間違い探しのようなものです。簡単に答えを言う子や、なかなか答えが分からない子など様々でした。中には親子で挑戦してくれて、子供の方が早く答えを言っていました。

この大会を通して、私たちが行った企画でたくさんの人々に喜んでもらえることができました。まだ学生ですが、自分が作った教材で食育推進の手助けができることができ、大変うれしく思います。これからは実業士として食育を推進できるように頑張りたいと思います。



栄養士への第一歩



私が、食育推進全国大会の存在を知ったのは、関西大学2年生になりすぐの事でした。私が4月から所属している研究室が、企画を出して、参加できるという事になったのです。初めは、食育の全国大会が、私たちが卒業研究を行う年に、地元の高橋で行われる事に対して異議と同時に、喜びを感じたのを覚えています。私たちが研究室の忙しい日々が始まりました。

その日から、全国の有名な郷土調味料を調べ、どの調味料を本番に出展するかを決めました。全国の食育という事で、日本の北側から「石狩漬」、南から「かつま汁」、開催地である高松県から「しじみ汁」「のっぺい汁」の計4種類の調味料を食育推進全国大会で販賣する事に決めました。また、数千人分の各調味料を販賣するため、実際に4種類の調味料を試食し、分量を決めました。そして、当日に調味料を販賣する際、売れ残りだけでなく、さらに売場して頂く方に「食べたいな。」と思って頂けるように、各調味料の由来を説明したり、実際に瓶に入っている材料を会場で見せたり、材料で使用している食品の健康になるための発酵などを説明するためのパワーポイントを準備しました。

その甲斐があり、当日は小売ると調味料はすべて完売し、そして、パワーポイントでの説明も1回、2回と目を重ねる毎に、うなぎさんらが聞いてくれる方が増えていきました。その時、私は、今、栄養士としての第一歩となるとても貴重な経験をしているのだと、初めて栄養士の喜びを実感したように感じました。

この食育推進全国大会が成功出来たのは、企画して下さいった方、私たちに寄り添って下さった先生方、自分が大変でつらい時も、常に他人の事をサポート出来る同じ研究室の仲間がいたからだと思っています。とても貴重なこの経験を必ず将来に生かし、自分へと還元していきたいと思っています。

食育全国大会に参加して

私は6月に行われた食育全国大会に参加し、食リンピックのまちがいじがしのブースを担当しました。食リンピックは、食に関するマナーなどをゲームで学んでもらうものでした。

このような大きなイベントに役員として参加するのは初めてで、上手くできるか不安でした。しかし、小さな子供からお年寄りの方まで様々な年代の方が参加してくださり、楽しんでいただいている姿をみて、私も身もすくんで楽しむことができるようになりました。

高校の学校の授業ではこのような体験がなかったので、一般の方を相手にどのようにしたらいいのかが、どのようにコミュニケーションをとったらいいのかが、2日間勉強になることばかりでした。なかなか実践的なことができていく中で今回のような体験をすることができ、自分が栄養士となった時に、ただ栄養士としての知識を覚えていければいいというものではないんだということを感じることができました。また、この大会で出会った方、来場された方とのふれあいも楽しく、本音に自身の思いを2日間を過ごすことができました。

食育全国大会に参加して



食育推進全国大会に参加して

健康文化学部 1年 水野 むつみ

私は観客が主催するブースの「食事バランス診断」の手伝いをしていただきました。主な活動内容は診断の呼び込み、受診者がコンピューターに入力する際の補助でした。食事バランス診断は受診者がタッチパネルを用いて、自分が食べた献立をコンピューターに入力し、その結果を見て管理栄養士の方が栄養指導を行うというものでした。2日間の間で診察に訪れた人は幅広い年代の方で、自分の食生活や健康について関心を持っている人が多いことに驚きました。将来食に関する仕事に就く身として食について関心がある人が多いことを嬉しく思いました。

2日間、管理栄養士の方と一緒に活動し、栄養士や管理栄養士は食育に関すること以外にコミュニケーション能力も大事ということを実感しました。初めて会う人に対して優しくやすい笑顔と丁寧な口調で接しておられたことが印象に残っています。私もこんな管理栄養士を目指し、これからも努力しようと思います。

乳幼児ふれあいコーナー

健康文化学部 1年 森住 真由子



私は、乳幼児ふれあいコーナーでボランティアとして参加しました。コーナーには健康文化学部の皆さん手づくりの食に関するさまざまな教材が用意されていて、その教材を使って、イベントに訪れた子どもたちと遊ぶという活動でした。最初は戸惑った様子の子も教材での遊びを通して声かけをするうちに、好きな食べ物の絵画で手振りをした思い出などを話してくれました。このようなことから教材を使う際のそばにいる人の声かけの重要性を改めて感じました。今回の活動を通して楽しく食育を学ぶことの大切さを感じました。食育を楽しく学ぶことができるような教材、工夫を考えていきたいです。

健康文化学部 1年 三原 香朱実

私は6月14日に、乳幼児ふれあい食育ゾーンにボランティアとして参加しました。印象に残った出来事は、日本人だけでなく外国人の子どももふれあいゾーンにいたことです。当日行われたイベントのバリエーションの在日大使夫妻の子どもだったのですが、用意されていた食育のおもちゃで日本人の子どもと同じように遊び、食べるの姿を見ていやがるほど楽しんでいた。この様子を見て、食育は幼いころからの関わりが大切で、食育には国境はないのだなと感じました。各ブースで様々な食育のかたちも見ることができ、参加してよかったと思います。

おはなしレストラン

健康文化学部 2年 大町 奈未



私たちは、6月16日にびびりメッセで開催された食育推進全国大会に、おはなしレストランとして参加しました。この大会は、食育の輪を広げようという目的で開催されているもので、私たち「食育」というテーマに基づいた演習、つなぎなどの準備をして本番に臨みました。

当日は、読み聞かせを通して「食」や「健康なからだ」といった身近な事柄を、子どもたちと楽しく共有し、学びあうことができました。また、その中で今後の読み聞かせへの課題点を、一人ひとりが気づき、考えることもできました。あるテーマの中で行う読み聞かせは、私たちにとって初めての経験でしたが、学びの詰まったとても貴重な時間になりました。この学びを今後の活動に活かして、これからもお話し相手になりたいと思っています。



公立大学法人
鳥取県立大学学長
本田 篤一

学長あいさつ

学長に就任して

宇野野学長のご逝去に伴い、平成21年4月、公立大学法人鳥取県立大学の理事長・学長に就任致しました。国立大学法人鳥取大学学長としての経験は乏しいながら、公立大学法人鳥取県立大学の発展に努める所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

最近、我が国は少子高齢化が進む中、日本の大学制度始まって以来の大きな制度変革として、公立大学においても大学統合や大学の法人化が進められています。

本学は、平成19年4月、岡田の鳥立大学、松江の鳥取女子短期大学及び出雲の鳥取短期大学の経営統合によって、公立大学法人鳥取県立大学となりました。そのため、新しい体制となった公立大学法人鳥取県立大学の理念を明確にし、全ての学生、教職員の高邁躍進していく手立てとして、「鳥取県立大学憲章」を制定したいと考えています。具体的には、「主体的に学び実践する」人材を養成する「教育」、「諸科学の統合」を実施する「研究」、地域の課題を多角的に研究し、地域の発展に貢献する「地域貢献」、北東アジア地域をはじめとする国際的な研究教育の拠点を構築する「国際交流」、透明性が高く機能性に優れた大学運営をおこなう「大学運営」を目指すことを明らかにする考えです。岡田、出雲、松江の3キャンパスが連携し、全ての大学構成員のベクトルを一つにして、これらの事業項目の実現を目指していきたいと考えています。

現在、本学は文部科学省が全国の大学のモデルとなるような優れた大学教育の取り組みを支援する「大学教育改革支援(GP) (グッド・プラクティス)」事業に、平成21年度には新たに2件が採択され、継続分を含め、現在、8件のGP事業が進行中という高い評価を得ています。今後もこのような高い水準の教育活動、研究活動を維持し、発展させていきたいと考えています。

鳥取県立大学短期大学部松江キャンパスは、昭和21年に設立された鳥取県立松江女子専門学校、そして、昭和28年に設立された鳥取県立保育専門学校にまで遡る長い歴史と伝統を持っています。現在では、健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の3学科からなり、栄養士、保育士、図書館司書の資格を取得することが出来る専門職養成カリキュラムが充実しています。卒業生は、これらの資格を基とした職域のみならず、さらに、公務員や流通、金融、保険等の幅広い分野で活躍しています。

無数の可能性を持つ多くの若い知性が鳥取県立大学短期大学部松江キャンパスに集うことを期待しています。

新任教員紹介

Matsue Campus Topics



総合文化学科 講師
堀谷 もも

総合文化学科に2009年4月に着任しました。堀谷と申します。アジア研究、アジア文化交渉等の科目を担当しています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

専門は文化人類学で、インドネシアの中部ジャバを対象に、自治や食を連動した人々のつながりについて研究しています。既婚者を中心に異国女性が集まって行なう料理準備の場に着目をおいて、地域社会や社会関係の特徴を考察してきました。近年ではケーティング菓の発達、イスラム教の影響等によって既婚者も変化しており、この変化に関心を持っています。また、最近ではイスラム教徒女性のベールについても研究しています。

私は群馬の出身で、大学時代の札幌を皮切りに、東京、ジャバ、横浜、再び東京、そして松江へと移動してきました。日本で任地地域の中で、松江は特に文化的にジャバと似ていると感じています。ジャバは京都と結び付けられることも多く、「静し」を重視する土地柄です。文化人類学は、現地調査(フィールド・ワーク)を重要な研究方法としており、松江で生活することで、ジャバの特徴がより明確に見えてくるかもしれません。休日には神社の散策、手まり作りを習うなど、ここでの生活を楽しんでいきます。

おはなしレストラン、はじまるよ!

総合文化学科 准教授 岩田 英作

松江キャンパスで取り組んでいる絵本の読み聞かせの活動が、平成21年度文部科学省大学教育推進プログラム(03円)に選定されました。学生が小学校などで子どもたちに読み聞かせを実践することによって、学生の人間力を総合的に高めることというのが取組の大きなねらいです。それに付随した事業も含め、これから次の4つの活動を行っています。

◆絵本の読み聞かせ

これまで総合文化学科で行ってきた読み聞かせの授業を、健康体育・教育の2学科も含めたキャンパス(全)で推進します。

◆おはなしシェフ

おはなしレストラン専任として、おはなしシェフの学生たちが読み聞かせに出かけます。お子さまの年齢や人数に応じて絵本を選び、歌や手遊びも取り入れます。出前のご希望がありましたら、できるかぎり行きたいと思います!

◆絵本データベース

絵本のあらすじやおススメポイント、読み聞かせにかかる時間など、読み聞かせに役立つ絵本の情報をWeb(<http://www.oha-res.com/>)で発信します。

◆おはなしレストランライブラリー(平成23年4月オープン)

本学体育館1階にライブラリーを開設し、国内外のすぐれた絵本を収集、貸出します。読み聞かせをはじめとする様々な企画も考えたいです。けっして広くは無く層数にも限りがありますが、子どもも大人も楽しめる、また楽しみたいと思ってもらえるようなライブラリーにしたいと考えています。

おはなしシェフの申し込み、その他おはなしレストランに関するお問い合わせは下記までお願いします。

Tel: 0852-26-5563 Fax: 0852-26-5569



佐陀川野点船

総合文化学科 1年 根本 美羽



秋も盛りの10月、吉道郡は、松江400年祭のイベントとして24日(土)25日(日)の2日間の日程で行われる、佐陀川野点船という催しに参加させていただきました。松江市ならではの催しは、佐陀川ゆかりのガイドで教員を深めつつ、佐々神社から穴道湖までの短い船旅(定航川)を往復して遊覧するというものです。

当日は先陣方の都合が合わず、船内でのお茶とお菓子によるおもてなしは1年生のみの試みとなりました。お礼書かなや菓子と語り高い技術を、景色を楽しみながら味わってほしいイベントを取りこぼさず松江市役所の方々のそうした意向に思い、タイミングを見計らってお茶を点てます。船外の景色に気を遣いながらの作業は手際よさが際われ、静寂の美しい1年生にとって楽しくもありましたが、それにも関わらずとてもよい勉強になったと思います。ペースが異なる1年生もそれぞれのペースで楽しんでいただけたらなりました。ありがとうございました。「ごちそうさま」「ありがとう」と声をかけてくださったお客様の温かい言葉が励みになりました。

日々の練習をいかにして地域の方におもてなしする。こうした機会に初めて触れる1年生の不安を取り除いてくださった先陣方の事前指導や、先方、市役所の方々の当日のサポートが2日間の日程をこなす上で大きな力になったと感じています。ありがとうございました。

集中講義に松本侑子先生(作家)をお迎えして

総合文化学科 1年 磯貝 美恵子

『赤毛のアン』の翻訳でも有名な、作家の松本侑子先生の集中講義を受ける機会を得ることができました。講と小説の創作という講義の中で、プロの作家の話を聞くという企画で、今年度は松本先生でした。

11月27日、28日の2日間にわたる講義で、午前中は『赤毛のアン』という作品に描かれたシェイクスピアや音楽等、英米文学作品からの引用についての話でした。子ども向けの、ただの児童文学であろうと思っていた作品でしたが、多くの文学作品に精通しているければ読みとくのが難しい書物もあり、大人でも十分に満足のできる作品であることがわかりました。

午後からは、先生の著作作に当たる『窓の壁』から創作について学びました。小説の創作動機に始まり、今回の作品は評伝小説でしたので、その時の取材などの話がありました。また、具体的な人名を法とないという評伝小説ならではの気遣いなど、初めて知ることも多く、非常に勉強になりました。さらに、作家という立場からしか聞くことができない話も多くありました。

『詩と小説の創作』という講義の中での疑問でしたので、創作に関する生の声がたくさん多いのですが、それ以上に、作家というある意味で特殊な職種の方が少しの数は、創作に興味が無い人でも引き込まれるものがあると思います。松本侑子先生の存在に圧倒されました。創作ということからも知識を得るということから、これからの生き方への刺激になるだろうという予感からも、今回の講義はとても充実したもので、いわば「事件」でした。



児童文学劇場

総合文化学科 1年 山本 麻理菜

児童文学劇場は、授業の一つで、さまざまな文学作品を劇にして、学費寮で上演して道徳のことも通に見てもらおうというものです。そして、児童文学劇場は、影絵、人形劇、人物劇から構成されており、私は、全体を振り仕切るリーダーをさせて頂きました。夏休み中の練習は、どこか暑く暑い中、一生懸命に練習に取り組み、本番に向かってモチベーションが上がっていました。

しかし!!問題発生。そう、インフルエンザです。我が校もしっかりと影響を受け、学費寮は中止となってしまいました。みんなの気分も下がり、やる気がなくなっていくのがよくわかりました。そこで、12月6日に仕切り直しの上演が決まりました。本番の3日前から、練習を再開したのですが、みんな下がりがってしまったアクションをあげにあげ、



猛烈な勢いで練習・準備にはげました。

そして本番当日、「入ってくるかな～」というみんなの心配をよそに、登場してくれた子どもたちは、なんと全員最高の人数でした。子どもたちはとても楽しんで、劇を見てくれました。そして、もちろん私たちもいっばい楽しみました。今年は、特にいるんなことがあった年だと思っています。しかし、結果的には大成功に終わったので、とてもいい思い出になりました。

SCHEDULE

※2020年度入学予定日

※学生史の掲載内容はあくまでも概略のご紹介です。



CLUBS & CIRCLES



自分らしさを表現できる。多様なジャンルのクラブ・サークルの一部をピックアップ!

写真部

写真部部長 総合文化学科3年 高田 彰香

写真部はフィルムカメラを使ってモノクロ写真を中心に製作しています。写真は撮影、現像、プリントという過程を経てつくられています。プリントは印刷術を発見後、半紙漉、定着液という3種類の薬品に浸して行います。現像液に印刷紙を入れると約90秒で画像が浮かび上がってきます。この瞬間がとても楽しく、教室にこもってプリントを何時間も行ふことがあります。

デジタルカメラや携帯電話で手軽に写真を撮ることができる今、私は依然フィルムカメラ、モノクロ写真を新鮮に感じています。私はフィルムカメラで写真を撮るようになってからこれまで見過してきた小さなことに気が付くようになりました。普段気安く見ている影ですが、影も光源の強さや距離で、濃さや色が多種に変化します。

このような日常にあふれているちょっとした面白さに気が付くようになったことが、写真から得た一番の収穫だったと感じています。



研究紹介

健康栄養学科准教授 食品学・食品加工学専攻 赤浦和之

私の研究室では、高級原料である西洋柿の利用と加工についての研究をしています。具体的には、西洋柿を人工的に熟柿(ジャック)にし貯蔵する方法や、熟柿から得られる熟柿ピューレを利用した加工食品の開発をしています。西洋柿は、あむせ柿として一般的には食べられませんが、実は熟柿にしてもたいへん美味なフルーツです。収穫した西洋柿を低温で貯蔵しておいて人工的に熟柿をつくり、さらにそれを低温で貯蔵・流通させることにより、まとまった数の熟柿を正月ごろまで供給できるようになりました。いっぽう、熟柿をミキサーなどで潰して作ったピューレは、冷凍保存ができ、さまざまな加工食品の原材料にすることができます。例えば、ピューレを生地内に練り込んでパンを焼くと、しっとりもっちりしたパンができました。



記事や写真を提供していただきました皆様へ感謝申し上げます。



島根県立大学短期大学部
松江キャンパス

〒690-0044 島根県松江市中浜7-1-1 210-4番2号
TEL 0852-21-8525 FAX 0852-21-8150

■発行：島根県立大学短期大学部松江キャンパス
メディア・図書開発委員会

■発行日：2010年3月31日

編集担当：メディア・図書開発委員会
発行所：印刷局株式会社